

プレス発表 Press Release

タイトル：「中性子で微粒子の配向過程を解明—中性子回折で実現したセラミックス微粒子配向過程の直接観察—」

発表日：平成20年3月18日

担当者：目時直人（アクチノイド化合物磁性・超伝導研究グループ）

※独立行政法人物質・材料研究機構 量子ビームセンターの寺田典樹研究員らとの共同研究による成果。

タイトル：「国立大学法人茨城大学と独立行政法人日本原子力研究開発機構との連携協力に関する協定」

発表日：平成20年3月18日

担当者：北條喜一（研究推進室）

※先端基礎研究センターでは本協定に基づき、茨城大学へ講師の派遣と学生実習生の受け入れを行います。

基礎科学セミナー ASR Seminar

回	年月日	講演者	開催テーマ
333	H20.3.19	Eduardo M. Bringa (ローレンス・リバモア研究所)	Atomistic Simulations of Swift Ion Bombardment
334	H20.3.27	Otto Glatter (グラーツ大学)	Progress in Evaluation Techniques for Small Angle Scattering Data and its Application to Self-Assembled Systems
335	H20.3.27	Otto Glatter (グラーツ大学)	Nanostructured Emulsions as Potential Delivery Systems for Functional Molecules and Basis for Transfer Studies
336	H20.6.9	Theo Tervoort (チューリヒ工科大学)	High Density Polytetrafluoroethylene: Structure, Properties and Processing
337	H20.7.1	中村 修二 (カリフォルニア大学)	基礎研究のアウトプットとアウトカム
338	H20.7.15	小池 文博 (北里大学)	重い原子の電子構造とダイナミックスの非経験的計算—遷移金属原子から超重原子まで
339	H20.7.24	David Boilley (フランス 重イオン加速器国立研究所)	Crossing Barriers to Reach the Super Heavy Elements Island
340	H20.7.30	那須 昭一 (ショウ研究所)	ウランガラスの光学的性質および石英ガラス中の酸素欠乏型欠陥
341	H20.7.30	永崎 洋 (産業技術総合研究所)	Synthesis and Physical Properties of F-free LnFeAsO _{1-y} Superconductors
342	H20.8.4	萩野 浩一 (東北大学)	Deep Subbarrier 領域における重イオン核融合反応と原子核間ポテンシャル
343	H20.8.5	町田 昌彦 (原子力機構 システム計算科学センター)	超伝導研究におけるマルチスケール・マルチフィジックスシミュレーション (CREST プロジェクト) の現状と展望
344	H20.8.8	馬場 祐治 (原子力機構 量子ビーム応用研究部門)	内殻共鳴励起を利用した表面・薄膜研究
345	H20.9.12	本橋 健次 (東京農工大学)	電荷交換イオン衝突により誘起された分子や固体表面の原子過程

先端基礎研究・評価委員会

先端基礎研究センターは、平成19年11月12日から14日にかけて先端基礎研究・評価委員会による中間評価を受けました。先端基礎研究・評価委員会による中間評価では、平成17年10月から平成19年9月までの先端基礎研究センターの運営及び先端基礎研究の実施に関する説明資料の検討、及び先端基礎研究センター長、並びに研究グループリーダーによる口頭発表と質疑応答、さらに研究現場訪問による研究員からの聞き取り調査を実施しました。先端基礎研究・評価委員会は、平成20年3月4日に評価結果を原子力機構理事長宛て答申しました。

この度、評価結果の公開のため、中間評価結果をとりまとめた報告書を発行いたしました。



先端基礎研究・評価委員会の構成 (平成20年3月現在)

委員長：井口 道生 (アルゴン国立研究所)
委員：安齋 昭夫 (日立情報通信エンジニアリング株式会社)
市川 行和 (独立行政法人宇宙航空研究開発機構)
榎 敏明 (東京工業大学)
菊池龍三郎 (茨城大学)
北原 和夫 (国際基督教大学)
小林 克己 (高エネルギー加速器研究機構)
後藤 俊夫 (中部大学)
田川 精一 (大阪大学)
福山 秀敏 (東京理科大学)
村井 眞二 (独立行政法人科学技術振興機構)
本林 透 (独立行政法人理化学研究所)

報告書の内容は原子力機構ホームページに掲載しております。(URL: http://www.jaea.go.jp/01/1_6.shtml#004)
冊子の送付をご希望の方は、綴じ込みのFAX送信票の通信欄に送付先住所を記入のうえ、中間評価報告書送付希望の旨ご連絡ください。

※本評価は、「国の研究開発評価に関する大綱的指針」(平成17年3月29日内閣総理大臣決定)及びこの大綱的指針を受けて作成された「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」(平成17年9月26日文部科学大臣決定)、並びに原子力機構の「研究開発課題評価実施規程」(平成17年10月1日制定、平成18年1月1日改訂)等に基づいて実施されたものです。

日本原子力研究開発機構先端基礎研究センター 国際シンポジウム

第8回先端基礎研究国際シンポジウム—第6回重イオン核物理に関する日本—イタリア間シンポジウム ASR2008 : The 6th Japan-Italy Symposium on Heavy Ion Physics

本センターでは、毎年、研究テーマの中から一つを選んで、「先端基礎研究センター国際シンポジウム」を開催しています。今年度は標記のテーマで、下記のとおり開催いたします。

日程：2008年11月11日(火)～15日(土)

会場：テクノ交流館リコッティ(茨城県那珂郡東海村船石川駅東3丁目1番1号)

概要：日本とイタリアの2国間における核物理学研究の協力と発展を促進することを目的とし、理化学研究所とイタリア国立核物理研究機構(INFN)の協力協定に基づいて開催するシンポジウムである。1992年にイタリアのカタニアで第1回が開催されて以来、イタリアと日本で交互に主催を務めている。今回は第6回目で、原子力機構と、理化学研究所、高エネルギー加速器研究機構、東京大学原子核科学研究センター、国立天文台、エキゾチック・フェムトシステム研究国際ネットワーク(日本学術振興会 先端研究拠点事業)との共催で行われる。発表ではイタリア人の招待講演者約20名、日本人の招待講演者約20名のほか、約10件の口頭発表とポスター発表が予定されており、分野として原子核構造、原子核反応、天体核反応、測定装置と研究施設、原子核物理の応用に焦点をあて、これまでの成果と今後の展開が議論される。会議期間中には、J-PARC、原子力機構タンデム・ブースター加速器施設およびTRIAC(東海短寿命核加速実験装置)の見学を行うことで、原子力機構における核物理研究活動の現場を紹介する予定である。

プログラム等の詳細はホームページをご参照ください。

<http://asrc.jaea.go.jp/asr_eng/JapanItaly2008/>

ASR2008 準備委員会

先端基礎研究センター 池添 博

TEL: 029-282-5450 FAX: 029-282-5927

Email: japanitaly2008@ml.jaea.go.jp

編集後記

陽電子顕微鏡の開発、原子核物理にもとづいた中性子星の研究、NMRを用いた重い電子系の超伝導といった、各研究分野の最先端を、専門外の方にもわかりやすく紹介することに腐心し、編集にあたってきました。読者のみなさんいかがでしたでしょうか。ご意見・ご感想、また基礎科学ノートで紹介してほしい、先端基礎研究センターにおける研究等がありましたら、編集委員までご連絡ください。(T.K.)